

「10人以下の会社が、充実度が極めて高い」

前提：努力は報われる基盤が存在して初めて、努力の意味がある。

大手企業に見る単純作業のみの業務に、努力は将来の力に成り得ない。

これを克服するには、二つである。

一つは、起業して自分で仕事を創ること。

もう一つは、10人以下の小さい会社に就職すること。

※既に100人規模になっているなら、10人規模の分社化を考えること。

理由

1. 10人以下の小さな会社は、自分の影響力が大きい。例えば社員1万人の大企業なら、10000分の1だが、10人の会社なら10分の1だから、一社員が会社に与える影響が異なる。社員数が少ない組織ほど一社員の行動、業績が会社のブランドや売上に直に響いて来る。

故に、責任が強くなる。しかし、責任が強くなるということは、評価もされ易い。

起業の経済的リスクを負わずに、会社に影響を与えて、会社経営の楽しさを受け止めることができる。

2. 小さい会社は、自分好みの環境を作り易い。自分の影響力が大きい。

自分の望む職場環境を作り易くなることを意味する。

例えば10人だけの会社なら、一社員の希望をすぐにトップに伝えることができる。これが、まともな理由なら、スグに環境を変えられる。

小さい会社は、一社員のモチベーションや能率が業績に直に響くので、各社員が気持ち良く働ける環境を出来るだけ用意しなければならない。

3. 小さな会社は社内業務が少ない。大きな会社ほど社内業務が多くなる傾向がある。

大きな会社ほど、統一した仕組みやルールが必要になって来る。

そして、それらを維持する為の仕事が必要になる。

こうなると、多くの方は、そのことに不満を感じて顧客に向き合う傾向があり、本来の仕事がしたいと望むものである。

これに対して小さな会社は、そういう雑事に囚われることが少なく、本来の業務に集中し易くなる。

4. 小さい会社は、社会に働き掛け易い。

社内業務が少ないと、外の世界に向けての仕事をする時間が多くなる。

意思決定の手続きがシンプルなので、自分で決断する機会が多くなり、

仕事を通じて自分の考えを社会に発信し易くなる。

大きい会社では、自分の意思で社会に働き掛けている感覚が薄くなり勝ちである。

5. 小さな会社は、外との交流に積極的。

少ない社内リソースだけでは仕事が完結しないことが多い為、当然外部の人とのつながりが増えて行く。

一方、大きな会社は、社内で仕事が完結してしまうことが多い為、社外の人と接する時も「人対人」より「会社対会社」の割り切った付き合いという面が強い。

6. 小さい会社は人間関係が良好。

一社員の影響力が強い為、人間関係で大きな問題が生じると、致命的な結果を招いてしまう。採用の時、社内で上手くやっけて行けるかどうかを重視する結果、

小さな会社は、良好な人間関係を維持している場合が多い。

7. 小さな会社は、自分が必要とされている感が強い。
仕事は属人的になり勝ち。
働く人が会社に必要とされていることを実感し易い為、周囲の人への感謝や評価を直に感じながら、働くことが出来る。
8. 小さい会社は、経営を間近に見ることが出来る。
身近なところにトップが居る。だから、その行動を間近に見られる。
そこには、仕事の本質となるエッセンスが数多く含まれている。
それは、社員にとって大きな成長のプラスになる。それに対して大きな会社では、経営を直に感じる事が稀で、それ故仕事を近視眼的に見てしまい、目先のことでキャリアプランを立ててしまう危険性がある。
9. 小さな会社は、幅広く仕事を経験出来る。分業されていないことが多い。
複数の仕事をこなして行かなければならない。隣り合う領域の経験を積むことは、スキルに深みを与え、結果的にプラスになることが多い。
10. 小さな会社で働くと、逞しく生きられる。「8. 9」のような理由から、最悪会社が無くなっても、他でやって行けるような能力が身に付き易い。
大きな会社に居ると、潰しが利かないので、転職した時、収入減になり易い。
11. 小さな会社は、良い肩書きが手に入り易い。
これによって、周囲の目が変わり、自分の携わる仕事の質も変わる。
大企業の係長クラスが中小企業の副社長というように。
中小企業の方が、副社長に相応しい仕事が舞い込む。それと、立場が変わるとスキルや、ものを見る目も変わって来る。
この方が、経験も豊富で物や人を動かす量や、責任も大きい傾向がある。
だから、相手もそういう立場の人物の方に話をしたがることが多い。

1 2. 小さい会社は、自分の力を試すことが出来る。

ここで働くと、言い訳が効かない。

小さい会社は自分の力で変えられる領域が広いので、ゴマカシが効かない反面、自分の本来の能力をストレートに発揮出来る。

1 3. 小さな会社は、収入を上げ易い。

一社員の貢献度の証明が比較的簡単で、給与の算定方法も厳格な規定に基づいたものでないことが多い為、会社の業績さえ上げられれば、割とスグに給与に反映される。

これに対して大きい会社では、一社員の業績への貢献度が図りにくく、また給与体系が確立してしまっている為、大幅な給与引き上げなどの臨機応変が難しく、どうしても平均的のところにとまり勝ち。

1 4. 小さい会社は、実はリスクが少ない。

大きな会社は、大きな社会的変化に対応しにくくなり勝ち。

小さい会社は、自分の力次第で社会的変化に対応出来るようになる。

以上の長所を本当に長所として享受するには、一つ条件がある。

それは「主体的に行動したい人」であることが前提である。

トップの理念（考え・志）を共に持つことが出来、その志を基に我が社で自分の出来ることは、今は何なのか！を常に考え乍ら、実践して行ける人。

理想を抱くこと。夢想とは違う。

理とは「ことわり」つまり哲学。

理屈の上で納得したものを積み上げて行くこと。